

JR東海労なごや

2008年 9月22日 No. 741
JR 東海労名古屋地方本部
発行者： 丹 羽 成 生
編集者： 教 宣 部

「ペシャワール会名古屋」へ弔問

「現地に行かねば始まらない、現地の人と一緒に成長したい」

8月26日アフガニスタン、ダライヌールで農業支援に従事していた伊藤和也さんが不幸にも武装グループの凶弾によって命を奪われました。冒頭の言葉は彼が活動の志望動機で話された内容の一部です。私たちは現地で現地の人とともに奮闘してきた彼に共感し、混沌とした国情の中で平和で豊かに人々が暮らす事を純粋に求め続けた彼の行為、彼の存在こそが国際貢献であると思います。

先日行われたJR東海労名古屋地本サマーキャンプでこの訃報に接し、急遽カンパを集めました。みんなの気持ちを伝えるべく「カンパ」をもってペシャワール会名古屋へ弔問に伺いました。

対応された本部理事の五井さんから伊藤さんの人となりや、マスコミなどからは伝わってこない話しなども聞かせてもらいました。ときおり涙を浮かべながら話される姿をみて無念さと悔しさが伝わってきました。そして、ペシャワール会はアフガニスタンから撤退しないという強い意志も伝えてくれました。

最後に、私たちが労働組合として、できる限りお手伝いすることを約束し、カンパを渡してきました。



こころより伊藤和也さんのご冥福をお祈りします。